

参加者等宗教者から16カ国世界 採択文宣言大会、8課題討議 G20諸宗教フォーラム

寺門跡)が開催され、現代社会が直面する八課題に対する

G20サミットに先立って、六月十一、十二の両日、世界十六カ国から百十名の宗教者や国際関係機関の代表者が参加してG20諸宗教フォーラム(会長



挨拶をする会長の瀬川仁和寺門跡

宗教者の提言をまとめた大会宣言文を採択し、日本政府に届けた。十一日は午前十時

大会宣言文(要旨)

世界の主要国がその利益をぶつけ合うG20サミットが大坂で開催されるが、看過すれば利益の極大化のみを目的とする経済的論理によって支配されてしまうであろうサミットの議論を少しでも修正するために、われわれ宗教者は、全地球的観点から、生きとし生けるあらゆるいのちを尊重する立場に立って、八つのテーマを中心に議論を重ねた。世界の主要国の指導者が、自国の利益を尊重するだけでなく、地球全体を俯瞰する視点から

七十億を超す全人類の幸福と生きとし生けるあらゆる生命が「いのち」を謳歌することができる世界を建設して行けるように、指導力を正しく發揮することを望むものである。最終兵器たる核兵器の開発は、核不拡散条約等核軍縮の努力にも関わらず、特に現在東アジアでは弾道ミサイルと共に地域の安全保障にとり大きな脅威になっていることに注意を喚起したい。唯一の戦争被害国日本で開催されるG20の首脳会議では、核兵器及び弾道ミサイルの廃絶へ向けて明確な意思を示すことを強く望む。

京都府議会旧本会議場において開会式を挙行、主催者を代表して会長の瀬川仁和寺門跡が「G20サミットの主要なテーマは経済成長だが、宗教界としては、その前提を認めつつも経済格差による貧困問題の恒常化、気候変動の悪化、苛烈な競争が招く人権侵害、生命科学や人工知能技術が齎す危険性等の課題点を提示したい。また日本の宗教者が世界の宗教指導者や国際機関の専門家達と共に考え、日本政

府を通じG20サミットにも提言しその成果を社会に積極的

- ①持続可能な成長に向けた世界的枠組み「グローバル・コンパクト」②「気候変動」③「AIの脅威と人間の責任」④自然災害等の危機に対する回復力ある「レジリエント社会」⑤「生命科学と宗教」⑥「抑圧された人々と共に生きる」⑦「少

子高齢化問題」⑧「格差社会と貧困」の八課題で討議を行い、本宗からは、テーマ③で中村殊明師(大覚寺派高澤寺住職)、テーマ⑤で大西龍心師(高野宗観音院住職)が、ネラーを務めた。十二日午後二時から清水寺で全体集会を開催し、別掲の大会宣言文「G20諸宗教フォーラム二〇一九京都宣言」を採択し閉会した。なお大会宣言文は十四日、三宅善信運営委員長と宣言文起草のウスビ・サコ京都精華大学人文学部教授により首相官邸で新田章文官房長官秘書官に託され、その後、菅官房長官から安倍首相に渡された。



▼G20サミットから一ヶ月、それにあわせ開催されたG20諸宗教フォーラムを取材した。今号にやっと記事を掲載するが、その中で分科会「A-1の脅威と人間の責任」で「人命と人権の尊重」という概念を、A-1も含めたサイバー空間に拡張することの必要性と人間の良心や倫理観を持たせ、人間らしい教育を行うことが重要」との提言に感銘を受けた。宗教者としてA-1とどう向きあうか。重要な課題である▼

新義真言宗定期宗議会で副住職認証申請簡略化を再考し撤回した件は妹川総長は宗議会后「副住職の自覚を促し、寺内に於ける身分を保障する意味でも今回の議案の承認は意義があった」と語った。他派でも副住職制度は導入しており今回の件は参考となるのではないか。

(喜多村)